

第 10 回小諸新校再編実施計画懇話会

日時：令和 4 年 3 月 25 日（金）

18 時～19 時 30 分

Zoom によるオンライン会議

会場：小諸商業高等学校《ホスト》

小諸市役所

小諸高等学校

<次 第>

1 開 会

2 挨拶

3 報告事項

- (1) 第 9 回小諸新校再編実施計画懇話会まとめ

4 会議事項

- (1) 小諸新校の「再編実施基本計画」について
- (2) 今後のスケジュールについて

5 その他 <次回の予定>

○第 11 回小諸新校再編実施計画懇話会

【日時】 令和 4 年 5 月 16 日（月） 18 時～19 時 30 分

【会場】 小諸市役所 第 1・第 2 会議室

【内容】 校名検討について、施設整備について等

6 閉 会

日時	令和3年(2021年)12月23日(木) 18時00分~19時30分	
場所	小諸市役所3階 第1・第2会議室	
出欠	懇話会構成員 出席=23名 欠席=2名	
傍聴 報道	傍聴者(含オンライン)3名 報道3社	
事務局	小諸商業高校	藤澤教頭(事務局長)、原教諭、中村教諭、浅沼教諭、中山教諭
	小諸高校	細萱教頭(副事務局長)、木住野教諭、坂口教諭、井出教諭、甲田教諭
	県教育委員会	上原主幹指導主事、高野担当係長、柳沢敬主任指導主事
当日資料	第9回懇話会次第と資料、第8回懇話会まとめ、統合に向けた諸課題についての関連資料	

会議事項

報告：第8回懇話会のまとめ 会議事項：統合に向けた諸課題についての意見交換及びこれまでの懇話会の集約

会議内容 及び 意見交換要旨

◆「小諸新校の学びのイメージ(全体像)」 【両校プロジェクトチームからの補足説明】

- ・『小諸新校構想 提案書』の教育方針を基に『本物に触れる』『地域連携』『学科・教科横断型学習』が新校の柱。
- ・カリキュラム編成の柱は、専門性を伸ばす学びの重視と小諸新校ならではの3科を融合した学びの展開。
- ・地域や実社会を学びの舞台とし、多様な生徒が本物に触れ、探究的・協働的に学ぶことで、それぞれの進路希望を実現し、将来の大きな夢に向かって自己実現できるような人を育む。
- ・商業科は「生き方」や「学ぶ意義」を追求するビジネス探究プログラムのブラッシュアップ、地域の各種団体や企業と連携した商品開発、デュアル学習等の更なる充実を図りながら、スムーズに3科が融合した新校の学びに繋げていく。
- ・普通科、音楽科の伝統を踏まえ、基礎学力定着と進路実現を学校の目指す姿の1つと捉え、新たな取組に挑戦する。
- ・学校の中だけではなく、自治体や大学等の協力も得ながら、地元小中学校等との連携も深め、地域のコンソーシアムを活かすことで、生徒の目指す学びを柔軟に支援できるシステムの構築を目指す。

【「小諸新校の学びのイメージ(全体像)」について、本懇話会としては提案内容を承認】

◆「新校開校に向けた諸課題について」懇話会からの提案内容(資料参照)

- (1) 活用する校地校舎について
 - ・校地検討部会からの提案を第7回懇話会で承認。「小諸商業高校の校地校舎を活用する」内容を再度確認。
- (2) 設置学科、設置課程について
 - ・全日制課程は、「普通科・商業科・音楽科の3科の設置」を確認。
 - ・定時制課程は、生徒の希望によって夜間定時制や多部制・単位制から選択できる配置が望ましい点、定時制課程に商業の学びを残してほしい点、以上2点の意見を踏まえ「小諸新校に定時制課程の設置が考えられる」とすることを確認。
- (3) 開校年度、募集学級数について
 - ・概ね4年程度と想定される施設整備の期間や、可能な限り早期の開校を目指す強い要望等の観点を踏まえ、開校年度を「令和8年度以降のできるだけ早期」とする。また、生徒の一体的な活動等を目指し一斉統合に期待する意見が多いことを確認。

【意見交換の主な内容】

- ・統合の方法が決まっていなくても「令和7年度以降のできるだけ早期」という考え方もできるのでは。
- ・施設整備4年を想定すると令和8年が最短と思われる。統合方法に関わらず実質的に「令和8年度以降」の表現に賛成。
- ・地域のコンソーシアム構築を目指す新校の学びや、コスト面、跡地活用等の観点から、一斉統合が良いと思う。
- ・新校地に音楽科等の施設が完成するタイミングが大事。新校が駅の近くに来て小諸市や地域との連携を目指す。学級数を最初に縮小する必要があるなど様々なハードルはあるが一斉統合が望ましいと考える。
- ・活用する校地については「校地拡張を含めた必要な校地・校舎整備」という内容が、校地部会からの提案として懇話会で承認され、県教委に伝わっていると認識。
- ・第6通学区の少子化は厳しい状況。令和8年度に7学級でも危惧される部分はあるが、両校の学級数を1ずつ減らした形でいければいいかと思う。なぜ統合が必要かについては、前提に子どもの数が減ることもあるが、学校としての活力の維持が大事な観点。何とか一斉統合が図れればいいと期待をしている。
- ・中学生に向けても一斉統合の方がいいと思う。表記は「募集開始年度」より「開校年度」の方が分かりやすいと思う。
- ・いよいよ身近な子どもたちが新校に進学していく姿を想像すると、年次統合より一斉統合を求めたいと思う。

《座長によるまとめ》：「一斉統合が望ましい」意見も踏まえ、現時点でのまとめを別紙の通り確認する →承認

《事務局からの連絡》：本懇話会の現時点でのまとめをもとに再編実施基本計画を策定し、できるだけ早期に長野県教育委員会定例会に付議し、県議会に統合の同意を求める。同意後は、開校に向けた準備が加速する。次回の懇話会の開催については、改めてご連絡。

小諸新校（仮称）再編実施基本計画

1 再編統合対象校

小諸商業高等学校、小諸高等学校

2 募集開始（開校）年度

令和 8 年度

今後両校の学校規模の縮小化が避けられない状況の中、できるだけ早期の統合が必要であること、施設の整備期間等を考慮し、令和 8 年度を新校の募集開始年度とする。

3 活用する校地・校舎

小諸商業高等学校

通学の利便性と、小諸市が進めている「多極ネットワーク型コンパクトシティ」のまちづくり構想と連動した新たな高校づくりの観点から、小諸商業高校を新校の校地校舎として活用する。

4 設置課程・学科及び開校時に想定する募集学級数

全日制課程 普通科 3 学級、商業科 3 学級、音楽科 1 学級

定時制課程 商業科 1 学級

※学科の名称等は、今後編成する教育課程等に基づき、開校前年度に決定する。

普通科・音楽科・商業科を置く新しいタイプの普通科・専門学科併設校とする。

佐久地域の中学校卒業予定者数の推移や現在の募集学級数から、新校の開校年度には 7 学級程度が想定される。

東信地域全体の配置状況を考慮し、定時制課程を設置する。

※新校開校時の募集学級数は、毎年度定める「長野県立高等学校生徒募集定員」により開校前年度に決定する。

5 統合新校の学びのイメージ

別紙のとおり

両校が築いてきたこれまでの学びを通し、「地域を舞台に多様性を重視しグローバルな視点で未来を創造する 3 科融合校」を構想する。

6 統合新校の施設整備について

新校の学びに必要な施設整備及び、高校施設の著しい老朽化と社会や学びの変化に対応し質的向上を図っていく。

・施設整備に係る概ねの期間 4 年程度を想定

小諸新校 議会同意後のスケジュールについて

高校再編推進室

【今後のスケジュールの確認】

1 令和4年度の大まかなスケジュール

○小諸新校再編実施計画懇話会【主に3つのテーマ：校名検討、施設整備、教育内容】

- ・ 4回程度開催予定。進捗状況の報告と意見交換を基本とする。
- ・ 第11回：5月16日（月）予定
 - ①校名選考Ⅰ（選考の進め方等） ②プロポーザルに向けて
- ・ 第12回：8月18日（木）予定
 - ①校名選考Ⅱ（選考方法、広報等） ②プロポーザルの報告
- ・ 第13回：11～12月の開催を予定。
 - ①校名選考Ⅲ（公募結果の説明、一次選考等） ②教育内容について
- ・ 第14回：1～2月の開催を予定。
 - ①校名選考Ⅳ（校名候補の決定等） ②教育内容について

○校内準備委員会の検討

- ・ 校名検討の方針
- ・ 学校目標や教育方針（グランドデザインと3つの方針）
- ・ 新校での地域連携や学科を横断したカリキュラム等の検討
- ・ 部活動の在り方（種類、活動場所の整理等）

2 「地域連携を含めた小諸新校の施設整備」をテーマとするシンポジウム開催について

○目的

- ①長野県の取組を建築・教育界へプロモーションし、広く建築界等に広報し、プロポーザルへの興味関心を高める。
- ②発信だけでなく、設計者と各関係者が「対話」することで、提案内容等への理解を深める。
- ③設計者からの進捗状況の報告・発表。生徒や子どもたちと新校の夢を語り合う。

○第1回シンポジウムの内容

- ・ プロポーザル周知のため「*NSD プロジェクトのキックオフシンポジウム」として小諸と伊那で同時開催。長野県の校舎整備についての概要を全国に発信
※NSD…Nagano School Design の略。県立学校学習空間デザイン検討委員会の報告書を踏まえた施設整備に係るプロジェクトの総称。
- ・ パネラー（予定）
 赤松佳珠子先生（法政大学教授）
 その他、専門家、教育関係者

○第2回目以降のシンポジウム運営と主な内容

- ・ 「小諸未来義塾」によるシンポジウムの開催（小諸市・両校共催）
- ・ 小諸新校の施設整備の概要説明 等

小諸新校の学校像

《地域を舞台に多様性を重視しグローバルな視点で未来を創造する 3科融合校》

【基本理念】

実践的な学びを通して本物に触れ、年齢や立場を越えた様々な人たちや多様な進路を志すもの同士が協働して学ぶことで、新たな社会や価値観を創造する人を育む。

【教育方針】

- (1) 地域をフィールドとした協働的・探究的な学びを通して、地域の発展に貢献できる「課題発見力」や「探究力」を育む。
- (2) グローバルな視野で、コミュニケーション力や多様な観点から批判的に考察する力を育む。
- (3) 主体的な学びを通して、自らの可能性と未来を切り拓く力や、より大きな夢に挑戦する力を育む。

【新校で重視する学びの姿勢】

主体的により良い社会の実現を目指す姿勢



何をどのように学ぶのか探究する姿勢

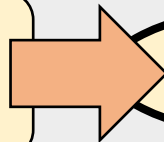
《新校の学びの柱》

地域と連携した学び

学科・教科横断型の学び

本物に触れる学び

- 多様性を大切にする学び
- ワクワクする学び
- 小諸ならではの学び



小諸共学共創コンソーシアム

地域の人々と共に学び

地域の未来を共創

商業科

普通科

音楽科

学科・教科横断型の授業を展開、実社会をフィールドとした3科のハーモニー

○商業の専門性を伸ばし、地域を舞台にした実践的な学びを通して、未来を拓くイノベーションの担い手の育成を目指す

○協働的に地域課題を探究する学びを通して、多様な進路への可能性を追求し、高いレベルでの自己実現を目指す

○音楽の専門的な学びに加え、他科と融合した諸活動を通して、世界を舞台に、それぞれの夢を実現する力を養成する

主体的・協働的に生き方や学ぶ意義を考える、新校独自の探究的プログラム

◆小諸商業高校の定時制商業科の学びは新校に継承

小諸新校 校地選定について

小諸新校再編整備計画懇話会

1 校地検討部会のまとめ

新校の校地は、小諸商業高等学校の校地を活用する。

2 校地選定に至った主な理由

- (1) 小諸駅に近く、生徒の利便性や安全性の面で優位性がある。
- (2) 市街地にあることで、小諸市が進めている「多極ネットワーク型コンパクトシティ」のまちづくり構想と連動した、地域協働コンソーシアムの構築が期待できる。

3 小諸商業校地活用にあたっての要望

- (1) 早期の開校を目指すこと。
- (2) 特に、以下に示す施設・設備の充実を目指すこと。
 - ア. 現行の普通科や音楽科の諸活動に必要な施設・設備の充実
 - イ. 地域と連携した新たな学びを実現する施設・設備の充実
 - ウ. 必要に応じた校地の拡張及び周辺整備
- (3) 小諸高校の跡地活用および必要な校地の拡張にあたっては、小諸市もまちづくりの視点で長野県と協力して対応すること。

長野県スクールデザイン2020(一部抜粋)

～これからの学びにふさわしい施設づくり～
 県立学校学習空間デザイン検討委員会の最終報告より

地域連携協働室 (イメージ)

地域の企業の人と学生による合同プロジェクトのプレゼンテーション。
 高齢者の方や子育て世代の人など、世代を超えた様々な人が来校し、
 生徒と一緒に考え、何かをつくりあげていける空間。
 地域の人が気軽に立ち寄れて、生徒と協働し、共創するための地域連携協働室。



赤ちゃんを連れてお母さんや
 年配の方々や生徒など
 地域の方々との世代を超えた
 コミュニケーションが生まれる場

「共創空間」

企業と学生
 のコラボ

世代を超えた
 交流

協働し
 共創する



地域連携
 協働室

1

クリエイティブラボ (イメージ)



ガラス展示櫃の作品越しに、
 中の作業風景が見える

「思い」や「考え」を「かたち」にするために、
 実際にプロダクト(制作物)に具現化

議論などを通じて自らの思考を深め、
 手を動かしながら試行錯誤し、
 何かを創造するための工具や3Dプリンター等を
 備えた「クリエイティブラボ」

「共創空間」

議論を通し
 思考を深め

手を動かし
 試行錯誤

想いや考え
 をかたちに



クリエイティブ
 ラボ

2